

1. 調査報告概要表

作成日 平成 21年5月10日

【評価実施概要】

事業所番号	(評価機関で記入) 2090500048
法人名	特定非営利活動法人 心
事業所名	グループホーム げんき
所在地	長野県飯田市座光寺3601-12 (電話) 0265-49-5152
評価機関名	福祉総合評価機構 長野県事務所
所在地	長野県飯田市上郷別府3307-5
訪問調査日	平成21年5月16日

【情報提供票より】(21年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 3月 28 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	11 人 常勤 6 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 8 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷 金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(4 月 1 日現在)

	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1		名	要介護2	3	名
要介護3	2	名	要介護4	4	名
要介護5		名	要支援2		名
年齢	平均 87 歳	最低	80 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	飯田病院,野村医院,みかさクリニック,小坂クリニック,黒柳歯科医院
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成21年の元善光寺御開帳で賑わった門前にあるグループホームで、近くに舞台桜で有名な麻績の里もあるが、普段は落ち着いた環境の中にある。昼食の時、利用者と職員との明るい会話が弾み、その後も懐かしい歌声が流れ、大きな笑い声が聞こえてくる。利用者の笑顔が印象的であり、温かな大家族の雰囲気を受け取ることができた。このような雰囲気は、「なじみ」「人間らしさ」を理念に掲げ、管理者と職員が一体となって作りあげているからだと思われる。今後もさらに発展していくことが期待されるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で指摘された中で、地域との交流を広げる、といった点では、まだ十分でないところがある。今後保育園・小学校との交流を計画している。また、栄養バランスなど専門家の指導を受ける、といった点では、献立表などを栄養士に見てもらってアドバイスを受け、評価を活かした改善に取り組んできている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回の反省を踏まえ、今回の自己評価を全職員で取り組んできた。その結果、徐々に職員に周知されてきている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2か月に1回、定期的に運営推進会議を開き、活動の様子や利用者の状況等を話し合っている。その中で、地域の民生委員の協力を得て、地域との交流を広げていく計画を進めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	定期的にホーム便り「げんき通信」を通して、利用者の生活やグループホームの状況を知らせたり、たよりを通して個々の利用者の様子を知らせたりしている。また、家族が訪問した時や電話をかけた時に利用者個々に合わせた報告を行ったり、意見や希望を聞いたりしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入している。また、ボランティアの方がハーモニカや踊りを見せに来たり、地域の方が野菜を持って来てくれたり、お茶を飲んで行ったりして交流を進めている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「なじみ」(住み慣れた地域の中、顔なじみの人々の中で地域の一員として当たり前の生活をする)・「人間らしさ」(御利用者の今までの生き方、生活を尊重し、個性的でその人らしい生活をする)という2つの理念を掲げ、グループホーム「げんき家族」としての4つの運営方針をつくりあげてきている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議やケア会議の折にふれ、理念を基に利用者の能力を引き出し、支援するように話し合いをしている。そして、職員は利用者個々の生活や習慣を大切に試行錯誤を繰り返し、日々の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。また、ボランティアの方がハーモニカや踊りを見せに来たり、地域の方が野菜を持って来てくれたり、お茶を飲んで行ったりして交流を進めている。		地域の保育園や小学校の子どもたちとの触れ合いを計画しているとのことで、その実践と成果が期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の反省を踏まえ、今回の自己評価を全職員で取り組んできた。また、献立表などを栄養士に見てもらってアドバイスを受けるなど、評価を活かした改善にも取り組んできている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、定期的に運営推進会議を開き、活動の様子や利用者の状況等を話し合っている。その中で、地域の民生委員の協力を得て、地域との交流を広げていく計画を進めている。		

グループホーム げんき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	飯田下伊那圏域の「グループホームの集い」に参加し、市の担当者を迎え学習会を開いている。今後も続けていく予定である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	定期的にホーム便り「げんき通信」を通して、利用者の生活やグループホームの状況を知らせたり、個々の利用者の様子はたよりを通して知らせたりしている。また、家族が訪問した時や電話をかけた時に利用者個々に合わせた報告を行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問や電話での会話などでのコミュニケーションを大切にして、意見要望を引き出すようにしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が離職や異動するときには引継ぎに配慮し、残った職員でカバーして、利用者への支援が変わりなく受けることができ、ダメージがないようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修を年間計画に位置づけ、職員に応じて研修会・講演会に参加するようにしている。そして、特に報告会はないが、職員はお互いに情報交換し合い、実践に活かしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	飯田下伊那圏域の「グループホームの集い」に参加し、食事介護やリスクマネジメントなどについて学習してきた。また、同法人内のグループホームと行事を通して交流し、互いにサービス向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者や家族を行事などに招待し、お茶を飲んで過ごしてもらったり、家庭へ訪問したりして、徐々に馴染んでもらえるように工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>調理などでは利用者にやっていただけるときは、味付けなど教えてもらったり、洗濯物を干したり、たたんだりしてもらったりして、一緒に過ごす時間を大切にしている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者との日々の関わりの中で、希望や意向の把握に努め、個人の記録や介護記録に記入し、共有できるようにしている。特に、言葉では言い表せない利用者が3人ほどいるが、表情や仕草などをよく見て、対応できるように努力している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>例えば、「淋しさを癒し、楽しみのある生活を送りたい」という課題をもった利用者には、「不穏になることなく、穏やかに過ごしたい」という目標を立て、「スタッフが見てくれる、関わりを持ってくれるという安心感を持って頂きます」などのように、具体的なサービス内容をもった介護計画を作成してきている。</p>		<p>介護計画全体を利用者本位の立場から見直すことを進めてきているので、さらに、充実されることを期待したい。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>現在利用者の状況は安定してきているが、介護計画の見直しは3か月に1回行っている。中には、病院にいる時にはつま先立ちができなかった利用者が、つま先立ちができ、自分で食べれるようになったことから、大幅な嬉しい見直しをしてきたことがあった。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況を考えて、通院や送迎など臨機応変に対応できるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の要望に応じてかかりつけ医と連絡をとるようにしている。また、近くの医院の協力を得て、毎月1回往診にきていただいている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方については、個々の家族の状況に応じ意向を聞き、医師とも連携して対応できるように話し合っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りを大切にして友達言葉で話さない、また、言葉でなくても分かるので大声でトイレ誘導しないなど、時と場に応じた対応に配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調を見ながら、そのペースに合わせ、起床、食事、入浴、就寝などができるようにしている。また、飯田の大火などの昔話を聞きながら、共に過ごす時間を楽しんでもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に昼食のときは、楽しい会話が弾み、利用者から「おいしいかな」とか「食器は片付けんでいいに」と声をかけてくれた。また、食器の後片付けのときは、「私が拭きます」「それじゃ私が洗うね」と職員と話しながら生き生きと手伝ったりしている利用者もいた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の状況に応じて、時間を決めたり、シャワー浴などにしたりしている。また、女性にも男性入浴介護が必要なときもあるので、細心の配慮をしながら、入浴を楽しんでもらうように努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理が好きな人には下ごしらえや配膳・食器洗いなどをやらせたり、繕い物が得意な人にはボタン付けやすそ縫いをしてもらったりして利用者の力を活かしている。また、貼り絵や折り紙などの作品を「ふれあい広場」に出品したいと、張り合いのある生活が送れるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの寺院や神社などを散歩したり、お花見などをしたりして楽しんでいる。また、利用者個々の希望を聞いて、お花や踊りの発表会などに参加できるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員がホールで必ず見守っているようにしている。地域との連携がうまくいって、利用者が外に出て行ったとき、隣近所の方が引き止めてくれたことがあった。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地元消防団と連携して、7月・10月に防災避難訓練を実施している。利用者に応じた避難経路などを示したマニュアルを作り、また、地域の方の協力が得られるよう、声掛けをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食はおしだし、和え物など親しみ食べやすい献立であった。利用者個々に合わせて、刻み食など工夫していた。栄養士の指導を受け、栄養バランスなど評価改善されてきている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	工場施設を改築した広々とした空間を、食堂・座敷・ホールが各居室と機能的に整備されている。そして、利用者の貼り絵や写真などが飾ってあり、気楽に過ごせる環境になっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の利用者の好みにより、ベッドや洋室でも畳を敷くなどして、生活しやすくなっており、また、使い慣れた家具などが配置され、安心して過ごせるようになっている。		